

【基本情報】

クラブ名	柏レイソル		
活動テーマ	クラブ運営業務のサポート活動		
実施場所	三協フロンテア柏スタジアム		
活動部署	強化・育成部、ホームタウン推進部		
参加者	中島舜	中川敦瑛	古澤ナベル 慈宇
	栗田大誠		
活動期間	2025 年 2 月 20 日(木)		

【活動報告詳細】

■活動目的

クラブ運営の裏側を学び体験することでJリーグやクラブを支えている人々の存在に気づき、感謝の理由を実感すること。

■活動内容

2025年2月20日(木)、日立柏サッカー場にて、中島舜、中川敦瑛、古澤ナベル 宇慈、栗田大誠が、クラブ運営サポート活動を行いました。
はじめに、クラブのマーケティング部より資料を基にクラブの概要、CSR活動に関する説明を受けた後、ホーム開幕戦に備え、三協フロンテア柏スタジアム場内のポスター貼り替え作業をフロントスタッフと一緒にしました。

■選手コメント

中島舜選手

クラブ運営サポート活動を通して、クラブ運営が、小学校訪問やスタジアム見学などの社会貢献活動を含んだ多岐にわたる活動やスポンサーの支援などによって成り立っていることを学びました。実際にスタジアムのポスターの張り替えなどを行いましたが、その時にもスタジアム内の清掃活動や、電気工事などを行っている方々がいて、また、試合を行う際には警備員や多くの運営の方々のサポートがあり、ポスターを張る作業一つとってもなかなか大変だった為、多くの人達の尽力があって初めて1年を通してリーグが運営できているということを感じました。この恩を忘れずに日々の練習やスタジアムでプレーする際は全力でプレーしたいと感じました。

中川敦瑛選手

今回のクラブ運営サポート活動で、座学や実際にポスター張りを体験してみて、普段何気なく見ていたポスターも、張り替えてくれている人がいて形として選手やサポーターに見える所だけではなく、形として見えない所でも選手をサポートしてくれている人達がいるということを知り、改めてJリーグやクラブを支えている方々への感謝の

気持ちを持つことができました。これからは、地域貢献活動を通してJリーグやクラブの発展の為に行動していきたいと思います。

古澤ナベル 慈宇選手

普段、当たり前のように使っている試合会場や、その周りの施設にどれだけの人が関わって成り立っているのかということを知る機会になりました。今までのサッカー人生の中で、そのような事を考える機会がなく、普通にピッチを使える環境が整っていて、当たり前のようにそれを使っていましたが、その一試合に何百人の人が関わらないと試合を開催する事が出来ないのだということを知り、改めて周りに支えられてプレーさせてもらっているのだと感じることができました。

栗田大誠選手

今回は、クラブの運営をサポートするにあたって、どのような人たちが、どのようにに関わり、サポートしてくれているのかが分かりました。1試合で400人以上の方々はその試合の為に前日から準備をしてくれているということが分かりました。改めて感謝をしたいと感じましたし、自分たちがポスター貼りをして、より多くの方々にレイソルを応援してもらいたいと感じました。また、そこで自分もSNSや社会貢献活動を通してレイソルの活動に貢献できればと感じました。

■活動写真



【基本情報】

クラブ名	柏レイソル		
活動テーマ	子どもの権利について知る、学ぶアクティビティ教材の開発を通して、社会連携とは何かを学ぶ		
実施場所	柏市立名戸ヶ谷小学校		
協働団体	セーブ・ザ・チルドレン	柏市立名戸ヶ谷小学校	
参加者	中川敦瑛	中島舜	桑田大誠
	古澤ナベル慈宇		
活動期間	2025 年 12 月 3 日(水)		

【活動報告詳細】

■活動目的

子どもの権利について知る、学ぶアクティビティ教材の開発

■活動内容

柏レイソルとセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、子どもの権利の普及啓発活動の一環として、小中高校などの各学校で教員が活用できる、子どもの権利に関する教材(アクティビティ)の開発を進めています。この授業では、参加型のワークショップを通じて、子どもの権利について共に考えました。学校(教育委員会)、国際 NGO、サッカークラブが協働し、選手と子どもたちが学校の授業の中では、すべての子どもたちにある権利についてジェスチャーを使いながら楽しく学ぶアクティビティやグループワークなどを実施しました。

※柏レイソルとセーブ・ザ・チルドレンの取り組みについて

柏レイソルとセーブ・ザ・チルドレンは 2012 年から連携をし、子どもの権利の推進のための活動を共に進めています。これまでに、ベトナム北部山岳少数民族の子どもたちへの教育事業への支援を行ったり、日本における「子ども虐待の予防」活動への支援として、約 4 万 3,000 人以上の大人と子どもに啓発活動を実施したりしてきました。また毎年チャリティマッチを開催しファン・サポーターの方へ柏レイソル選手が直接寄付を呼び掛けるほか、トップチームからアカデミーチームまで全ての公式戦ユニフォームへのセーブ・ザ・チルドレンロゴ掲出など、広報 PR 活動への協力も行っています。2022 年からは、「#レイソルは子どもとともに」のキャッチコピーのもと、子どもも大人も子どもの権利を知り、子どもの声がきちんと聴かれる社会づくりを目指す教材作りへの支援を行ってきました。

■選手コメント

中川敦瑛選手

今回の授業ではセーブ・ザ・チルドレンの協力のもと実施し、社会連携とは何かを学ぶことを目的として取り組むことができました。実際に子ども達と関わる中で、Jリーグ選手として活動する際に、多くのステークホルダーが支えてくれているのだということを改めて実感することができました。授業をしていく上で、子ども達が積極的に参加してくれて、自分の言葉で発信している姿が印象的で、自分にとっても大切な学びの機会となりました。

中島舜選手

今まで全く学んでこなかった授業の内容であったので、それを子どもたちと一緒に学ぶことができ、また新しい知識が身につきました。自分がアカデミーに所属していたころから関わりのあったセーブ・ザ・チルドレンの活動内容や、どのようなことを伝えようとしているのかが実体験とし分かりました。この授業で学んだことは、今後、出会う人や子どもたちへの接し方など今後にいけるような学びだったので、忘れずに実践して行きたいを思いました。

栗田大誠選手

今回の活動を通して、子どもの権利や人権など、これまでの人生で何度か耳にしたり、触れてきたりしましたが、この活動を通して改めて学ぶことができ、大変良い機会となりました。それだけではなく、小学生の元気なパワーやレイソルのユニフォームを着ている生徒などのから温かい迎え入れをしてもらい、地域とレイソルは密着につながり、このような活動の重要性を感じました。今までなんとなく SNS など地域との交流をしているチームの投稿などを見ていたが、なぜそのような取り組みをしているのか、実際に活動を行ったことにより理解する事ができ、選手側も頑張る原動力になると感じました。

古澤ナベル慈宇選手

今回、実際に小学校へ行き、子どもの権利について小学生と一緒に授業をしたのは初めての経験だったので、とても楽しい時間を過ごすことができました。子ども達が、自分の思いを真剣に語る姿に感動し、それぞれの権利を学ぶことの大切さを実感しました。今回、セーブ・ザ・チルドレンと連携して実施することのできたこの学びの機会を、今後の活動にも生かしていきたいです。もし次の機会があったら、さらに分かりやすく、子どもの権利について伝えられるよう準備をしたいと思います。

■活動写真

